

一字書課題 (1月22日締切)

- (1) 書体自由 (2) 半紙タテ
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券の余白に「一字書」と記入

曆

条幅随意参考



中公 夫人足下 勞苦

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部（無料）にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

(1月22日締切) 出品料440円



『簡牘名蹟選⑦』(二玄社)

木簡 (懸泉置前漢帛書)

第九回
1、字句 為建多請長

2、形式 半紙タテ使用。右に「為建多」左に「請長」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。

3、概観 木簡は今回が最後になります。木簡は初めてという方も多かったのではないのでしょうか。木簡と同時代に帛書（書写につかわれた絹）があります。

今回の懸泉置前漢帛書は、前漢（前二〇六〜八）中期〜魏・晋（二二一〜八〇）の帛書です。

「書く」ことが姿を見せはじめた段階の絹布（帛）に書かれた文字です。書体からいうと篆書体に近いが、「右はらい波磔」とでもよぶべき筆の沈みが生じている。規範的には隸書だが、書体は、古隸・八分・草隸・章草が混在している。

4、各字のポイント

為 一画目は押して後引き上げ、二画目は中央で押してゆく。まさしく草書体である。

建 横画は稍右上がりの隸書体。終画は末筆で上にハネ上げる。

多 上の「夕」の点から下の「夕」の二画目につながっている。

請 「言」偏と旁の「月」が草書体となっている。

長 「長」はこの帛に三字あるが、全て楷書体に見える。

『簡牘名蹟選⑦』(二玄社)

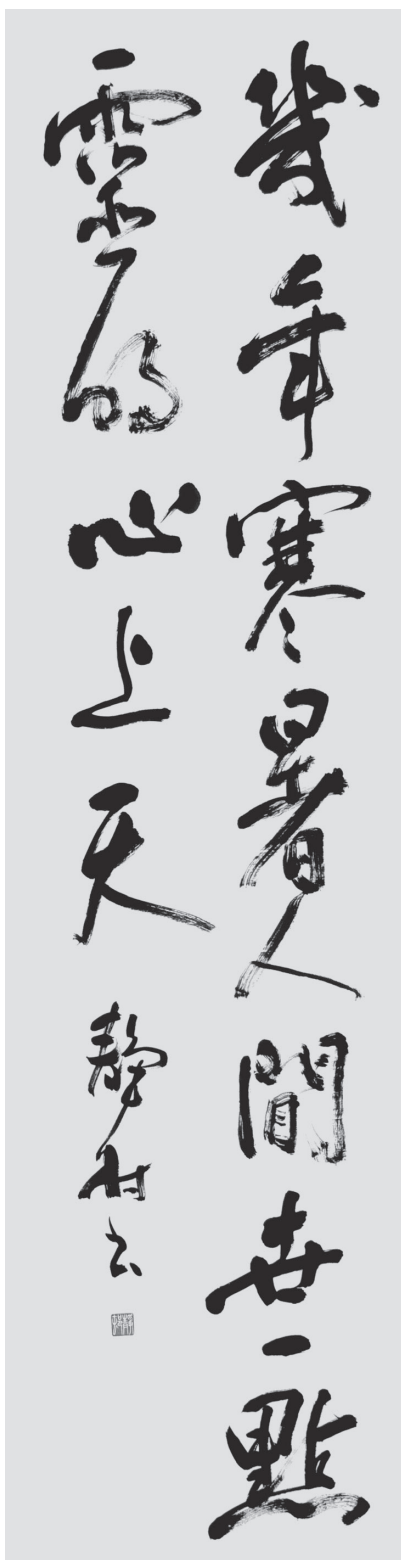
条幅部漢字課題参考

(一月二十二日締切)

A

鈴木静村先生書

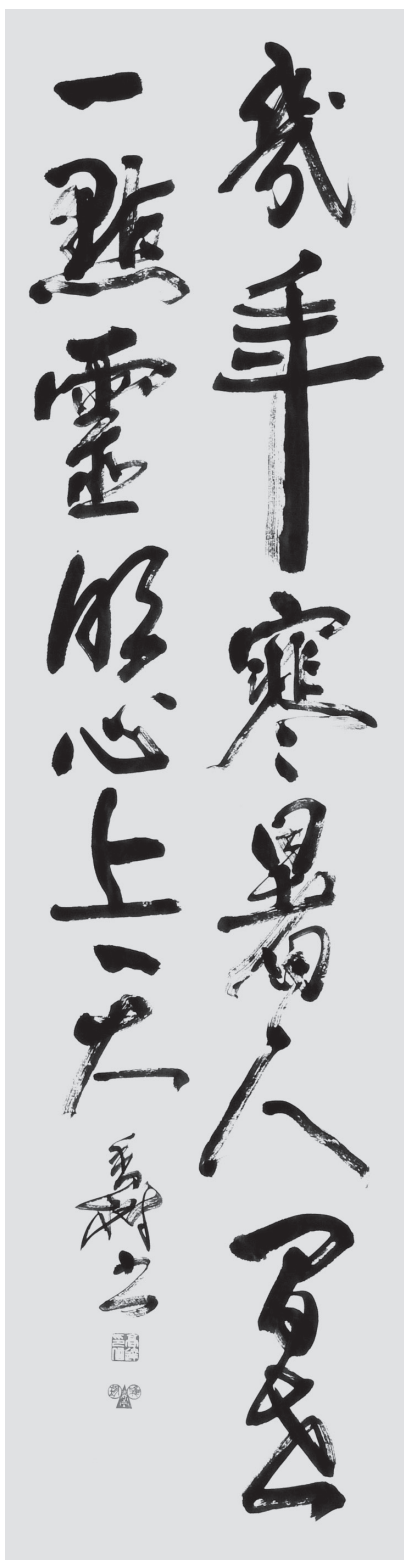
幾年寒暑人間世 一點靈明心上天 (王義山)
幾年の寒暑人間の世、一点の靈明心上の天。



B

高橋香樹会長書

字幅の広い字や狭い字の工夫をして、さらに潤と渴も導入しながら、次の字へつながりをもたせる。特に左行では、右の字を見ながら書き入れる。この訓練が条幅での基本。各字が大小、潤渴等譲り合うと、行間が活かされて躍動してくる。



今回の課題では、「一」の文字を一行目の最後におくか二行目の最初にするか迷いました。「一」は八字目ということを見ると、一行目最後となるとは思いますが、何となく抵抗があり、「一行目としました」「年」は、今臨書で取りあげている木簡にしてみました。また、「上」も行書とそんなに変わらな

い篆書となりました。墨継ぎは「間」と「明」。
訳：幾年の春をすごすのか、この俗世間で、一点のすっきりした気持ちは、心の中の青空である。

予告 (二月二十二日締切)

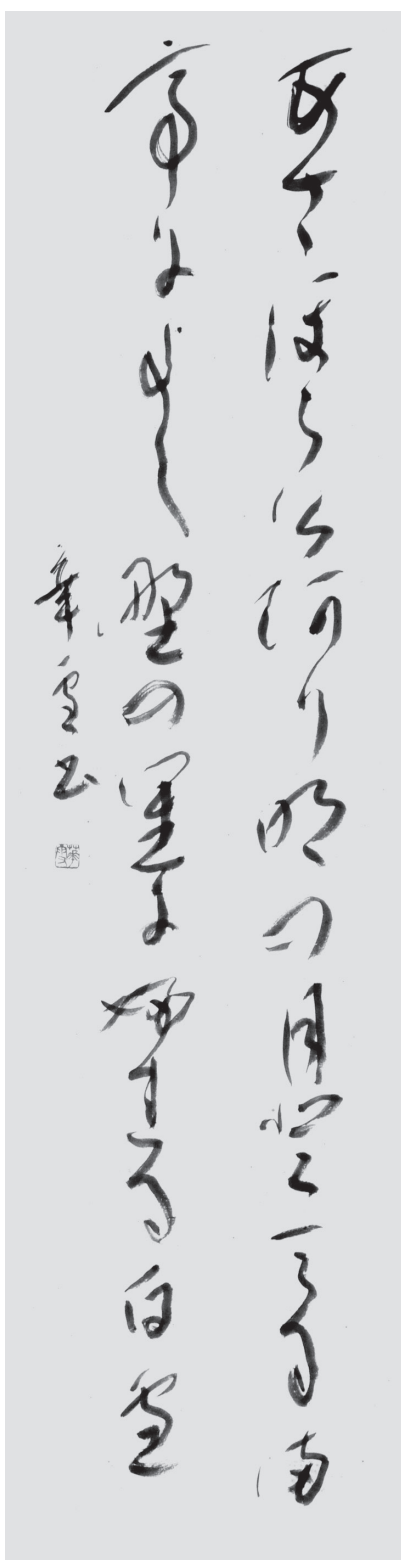
侵晨試墨書蕉葉 趁月彈琴上竹樓 (袁隨園)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部かな課題参考 (一月二十二日締切)

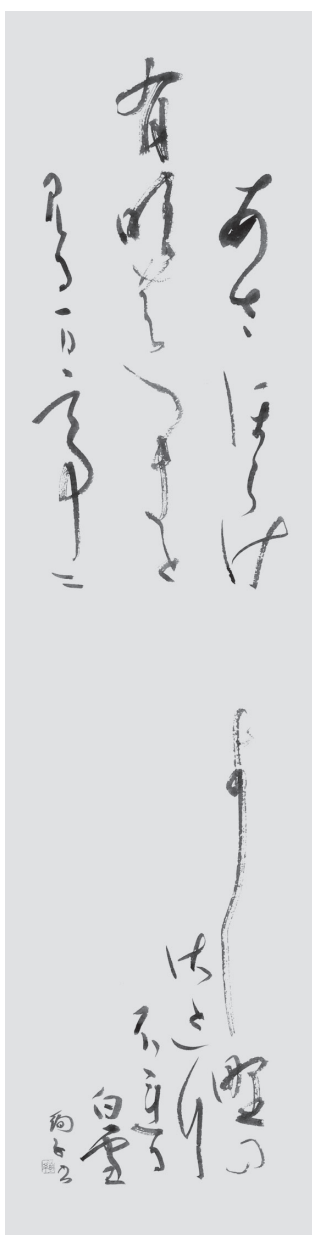
A 平岡華雪先生書

あさぼらけ有明の月と見るまでによしの、里にふれる白雪（古今和歌集 坂上是則）
あさほらけ阿明（ありあけ）の月登（とみ）三満亭（まて）尔よし野の里（に）尔（に）婦連る白雪



B 宮 絢子先生書

あさほらけ有明農つ支と見る万亭二よし野の佐と耳不連る白雪



坂上是則は生誕年不明、九三〇年没。坂上田村麻呂四代の子孫「好蔭」の子。三十六歌仙の一人。けまり（蹴鞠）の名人。歌集に『是則集』がある。
この歌は「古今和歌集」冬三三二番のものであり、「百人一首」の中の一首として現在も親しまれている。

学び方

歌の前に「大和国にまかれりける時に雪の降りけるを見てよめる」とある。
夜明けに目を覚まし、この明るさは「月の光」かと外を見ると、白い雪が降っていた。どんなに美しかったことか。是則が感動した純白の雪景色をイメージしてみたいと、二段構成の下段に思い切って純白の部分（大きな空間）をとってみました。

予告 (二月二十二日締切)

春の夜の夢の浮橋とだえして峰に別るる横雲の空 (新古今和歌集 藤原定家)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

条幅部随意参考

勝間 凜華 先生 書

寒雪光分千嶂月 石橋横鎖一溪烟（孫大成）
寒雪光^{かんせつひかり}は分る^{わか}千嶂^{せんしょう}の月^{つき}、石橋^{せききょう}横^{よこ}に鎖す^さ一溪^{いっけい}の烟^{けなり}。

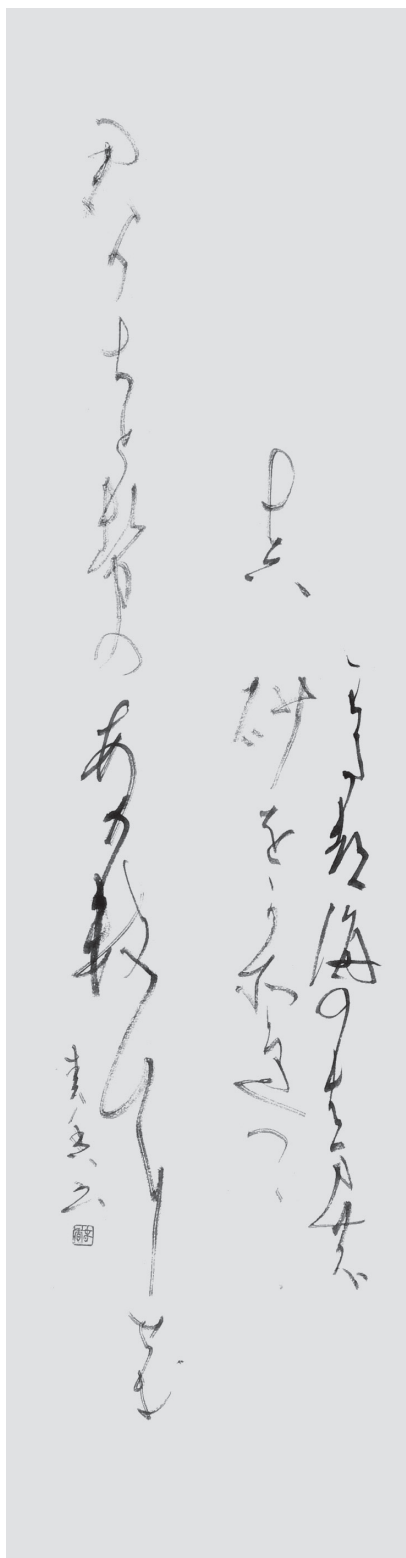
寒雪光分千嶂月 石橋横鎖一溪烟

凜華 書

訳：寒夜の雪は光を分って千山の月と共に照り、石の橋は横さまに谷じゅうもやに鎖された。

石原 春香 先生 書

わたつ海^みの浜^{はま}の真砂^{まご}をかぞへつゝ君^{きみ}が千年^{ちとせ}のあり数^{かず}にせむ（古今和歌集 読人しらず）
王多都海^{わただつみ}の者^{もの}万農^{ばんのう}真砂^{まご}を可^か所^{ところ}邊^へつゝ君^{きみ}可^かちと勢^せのあ利^り数^{かず}耳^にせむ



歌意：大海の浜辺の砂を繰り返し数えては、あなた様の「千年」の数量と致しましょう。

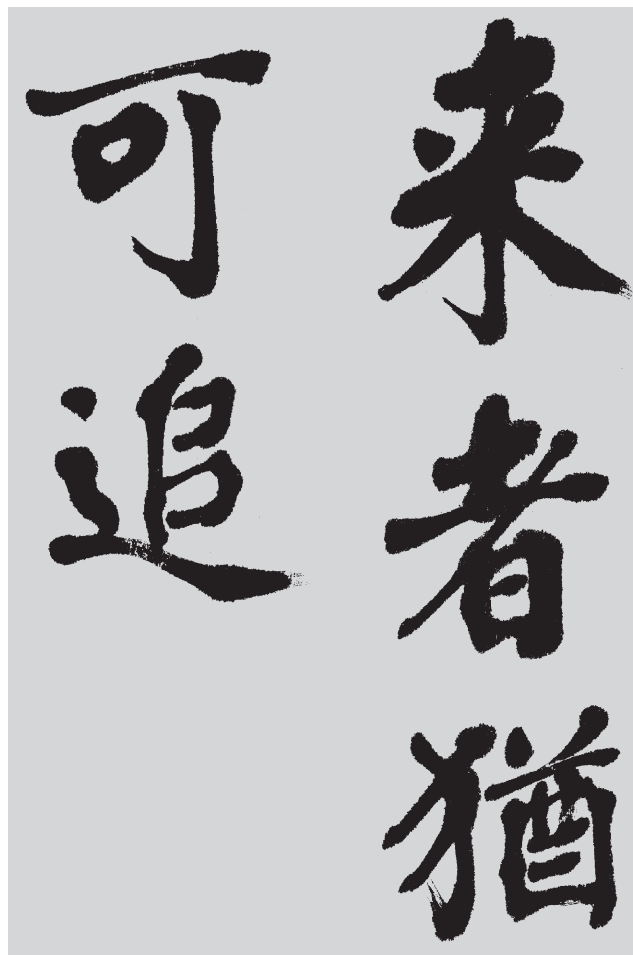
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

平岡華雪先生書

来者は猶追う可し（論語）
訳：（過ぎ去ったことは改めようがないが）今からのことは間に合う。

〈各字について〉
「猶」ケモノ偏のスタイルはいろいろ、字典で調べるとよい。正字の「来」は、古典ではほとんど「来」。「追」
「自」と之繞とのバランス注意。

漢字部課題参考（一月二十二日締切）



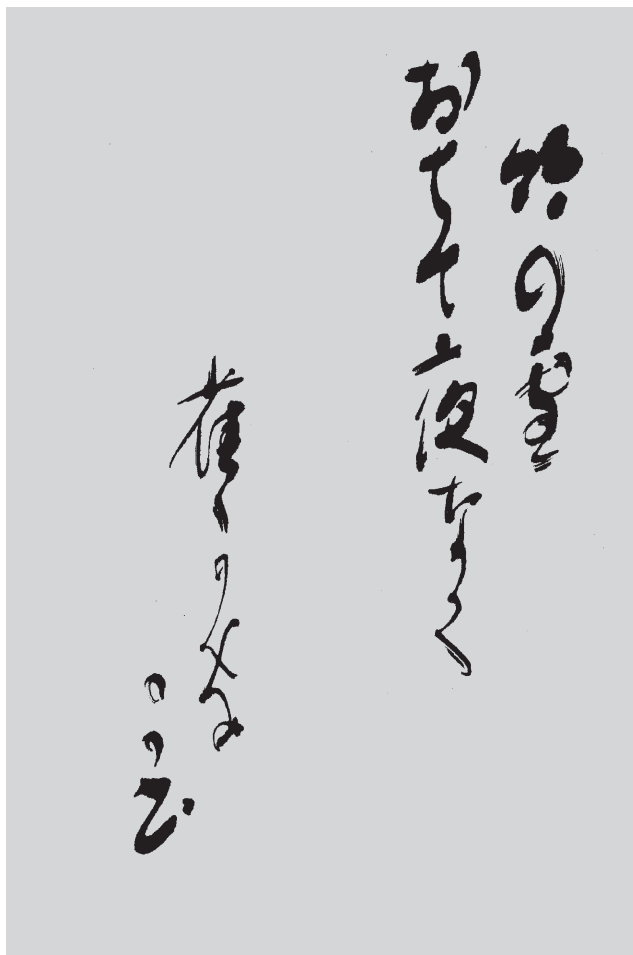
（二月二十二日締切） 暖日黄金柳（范成大）

平岡華雪先生書

竹の雪おちて夜なく雀かな（塵交）
竹の雪おちて夜なく雀可奈

〈基本的課題―基礎力の習熟を―〉
散らし、書調から見て基本的な表出。初歩の方には適切な課題です。変体がない「可」は、「雀」からの一画を大きく弾ませ、「可」の画に鋭く入り、さらに弾んで「奈」に連綿しています。

かな部課題参考（一月二十二日締切）

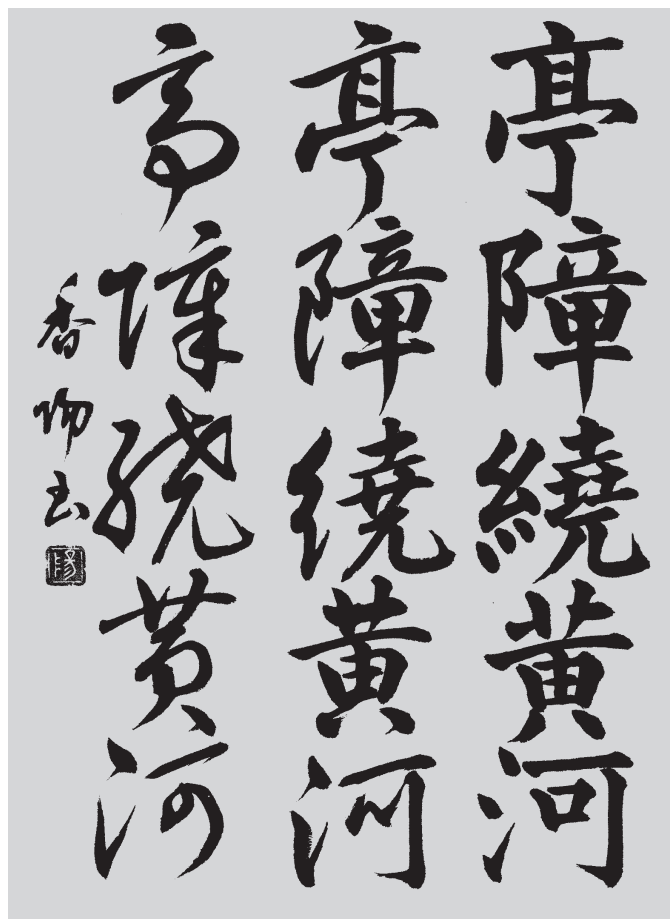


（二月二十二日締切） 梅の花草の軒端に触れて咲く（正）

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門（例：「漢字部」「かな部」） ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

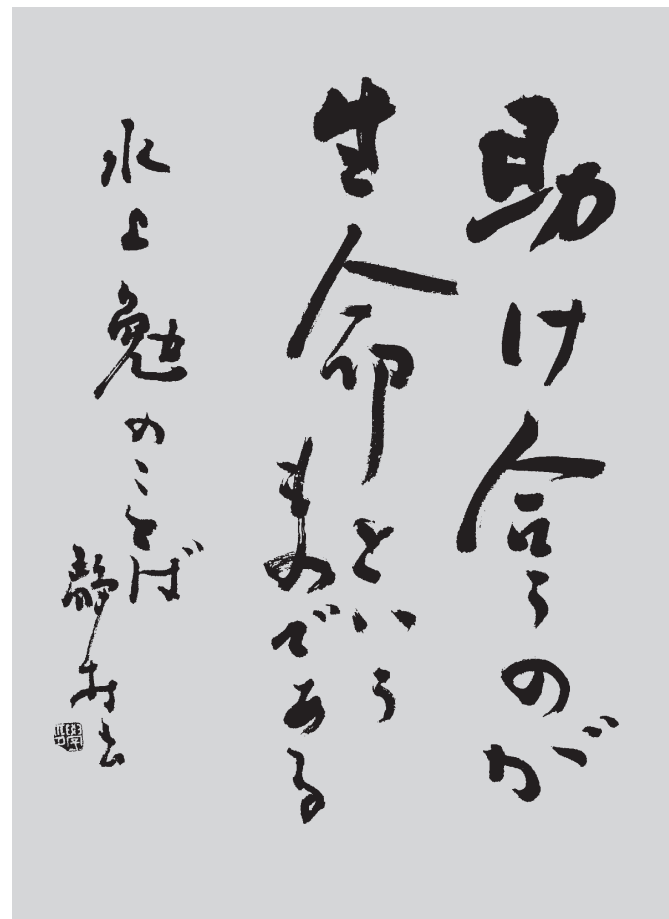
楷、行、草、三体課題参考（一月二十二日締切）



訳：防壁は黄河に沿って曲りくねっている。

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

漢字かな交じりの書課題参考（一月二十二日締切）



鈴木静村先生書

助け合うのが生命いのちというものである

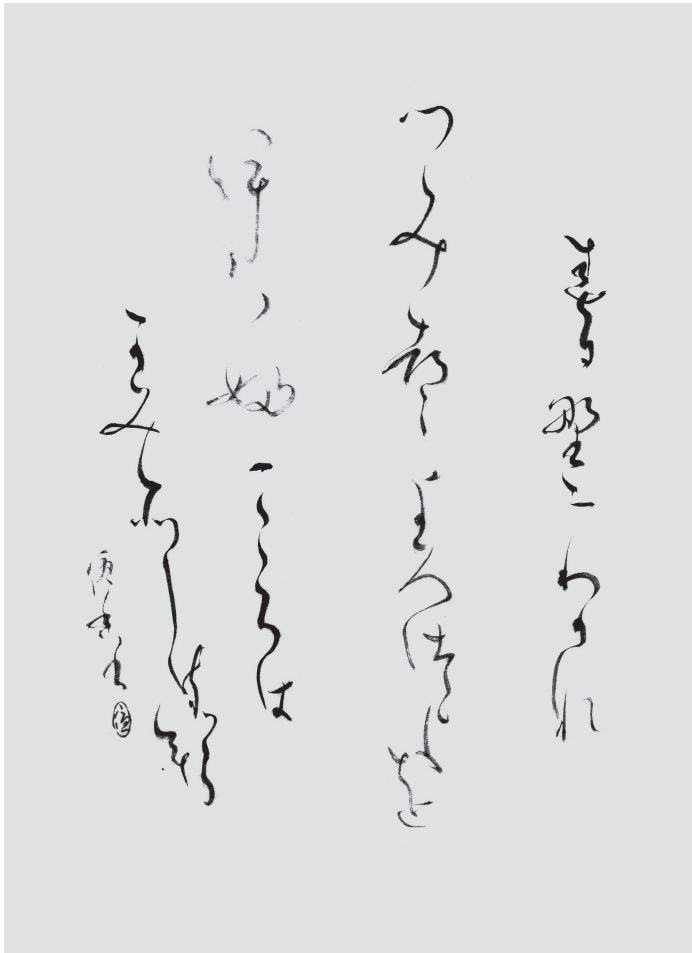
（水上勉のことは）

（5）

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

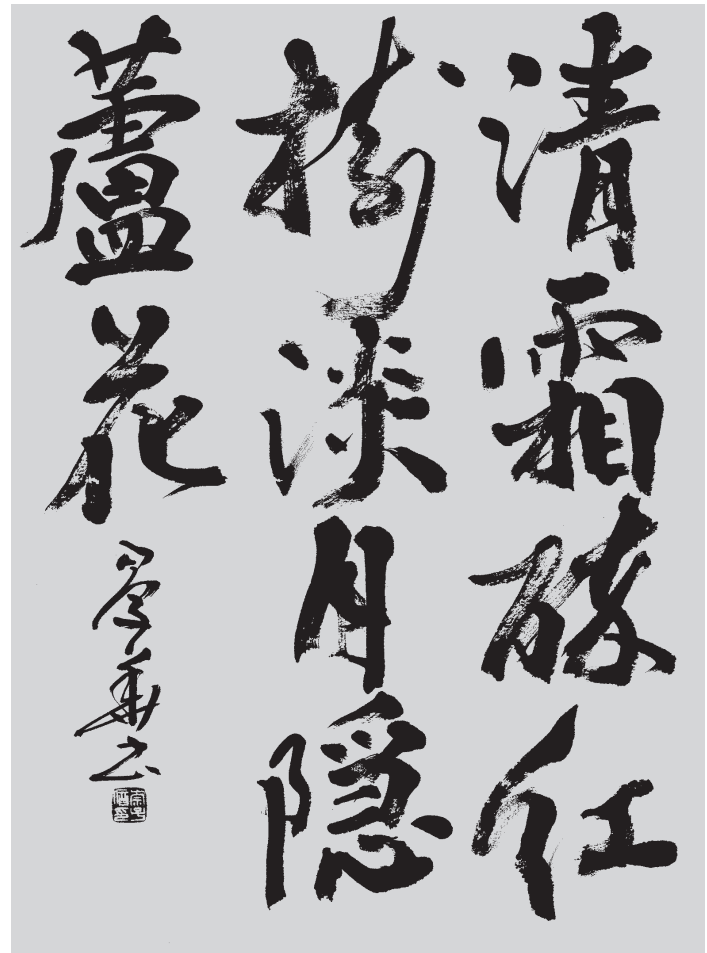
歌意：春日野にめでたい若菜を摘みながら、限らない命を願う心は、神のみ心のままに叶えて
いただけることだろう。



本澤優香先生書

春日野に若菜つみつつ万代を祝ふ心は神ぞしるらむ（素性）
春日野二わ可那つみ都より徒よを伊八婦こころは可み所し流ら牟

訳：清き霜は夜毎に降って樹は酔った如くに赤く、淡い色の月は白い芦花の中に沈むのである。



小林崇華先生書

清霜酔紅樹 淡月隠蘆花（李時憲）
清霜紅樹酔い、淡月芦花に隠る。

硬筆部課題参考

(一月二十二日締切)

生駒紅泉先生書

稲畑曄穂先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

やがて来る冬をこころの内に思いな
がら見ている明るく穏やかな菊の
風景はしみじみと惜しく美しい。

書き初めというものをしなくなつたが、
それでも、墨のあとの美しい賀状を
手にし、人との縁を思うのは、やはり
年頭ならでの感慨である。

課題1 (初段階以上)

書き初めというものをしなくなつたが、それでも、墨のあとの美しい賀状を手にして人との縁を思うのは、やはり年頭ならでの感慨である。

〔墨〕 竹西寛子

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)

やがて来る冬をこころの内に思ながら見ている明るく穏やかな菊の風景はしみじみと惜しく美しい。

〔菊〕 馬場あき子